

富士フイルム(株)富士宮事業場 サステナビリティレポート 2023

ご挨拶

富士フイルム富士宮事業場は世界文化遺産富士山の南西山麓に位置し、清澄な空気、豊富な湧水の恩恵を受けて操業しております。1963年の創立以来、地域やステークホルダーの方々にはご理解とご支援を賜り、深く感謝しております。

私たちは昨今の環境に対する状況変化を厳粛に受け止め、事業活動に伴う環境への影響を正しく認識し、廃棄物削減と資源循環の促進、化学物質の適正管理、カーボンニュートラルの実現、及び地域の環境保全などに全力で取り組みます。また、新たな価値創出にも取り組み、世の中のさまざまな社会課題解決、SDGsなどに積極的に貢献していきます。

2020年度から新型コロナウイルス感染症対策のため地域の皆さまとのコミュニケーションの場が減っておりました。5類移行を考慮して、今後徐々に各種行事を再開したいと思っています。

2023年6月
富士フイルム(株)
富士宮事業場長
土田秀世



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



*このレポートは、富士フイルム(株)富士宮事業場(関連会社含む)の環境・安全及び地域とのコミュニケーションについて、2022年度の実績をまとめたものです。対象期間：2022年4月～2023年3月

富士宮事業場の概要

創立	1963年10月16日
所在地	〒418-8666 静岡県富士宮市大中里200番地
主要生産品目	医療及び工業用X-レイフィルム、各種機能性フィルム、抗菌材料
マネジメントシステム	ISO9001、ISO14001、ISO45001 認証取得統合プログラムプレミアム・ステージ(上位認証)
2022年度概況	生産金額644億円、従業員数1,015人(関連会社含む、2022年3月末時点) 事業場敷地面積 358千m ² 、事業場建物面積 129千m ²

環境負荷概要

主要原材料	主要製品
PET原料、ゼラチン、硝酸銀など 24,155 t	X-レイフィルム、各種機能性フィルムなど 17,887 t
エネルギー	環境成績
重油・灯油 14,582 kL	大気排出 VOC164t、CO ₂ 141千t、SOx3.2t、NOx95t
購入電力量 245 MWh	排水量 11,529 千m ³
天然ガス 45,528 千Nm ³	排水水質 BOD 7.3t、COD 29t、SS 9.9t、総リン量 0.3t
水 10,676 千m ³	一般廃棄物 39t、産業廃棄物 1,626t、有価物率 65%

環境保全活動の概要

大気	各項目とも法令及び富士宮市との公害防止協定の計画値以下でした。
排水	法規制及び公害防止協定より厳しい事業場管理基準値を設け、各項目とも基準値以下でした。
ゼロエミッション	単純焼却・埋立ゼロの「ゼロエミッション」を継続しました(2001年以降継続中)。
環境モニタリング	定期的な地下水モニタリングにより、土壌や地下水の水質に問題ないことを確認しました。

【特集1】カーボンニュートラル

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素 CO₂ に留まらない、温室効果ガス全般の排出量と吸収量を、様々な手法でプラスマイナスゼロにすることを意味します。

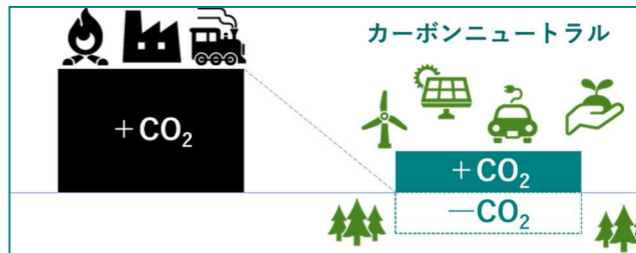
何故、今、カーボンニュートラルが必要か。一つの理由として気候変動対策があります。温室効果ガスの上昇により、海面上昇や豪雨、干ばつなどの異常気象が起これと言われています。これを防ぐために、2100年までの世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えようと、国際協調のもとで地球温暖化対策が加速しています。

富士フイルムグループは、2021年12月に、新たな脱炭素目標を公表しました。サステナブルバリュープラン2030で掲げた目標を「自社が使用するエネルギー起因のCO₂排出量及び製品ライフサイクル全体におけるCO₂排出量を2019年度比半減」に見直すとともに、「2040年度に自社が使用するエネルギー起因のCO₂排出を実質的にゼロにする」というチャレンジングな目標を加えました。

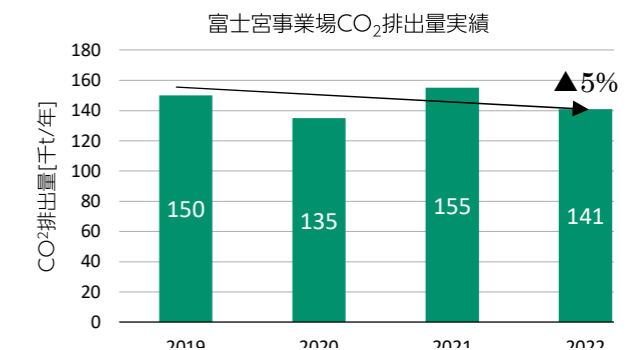
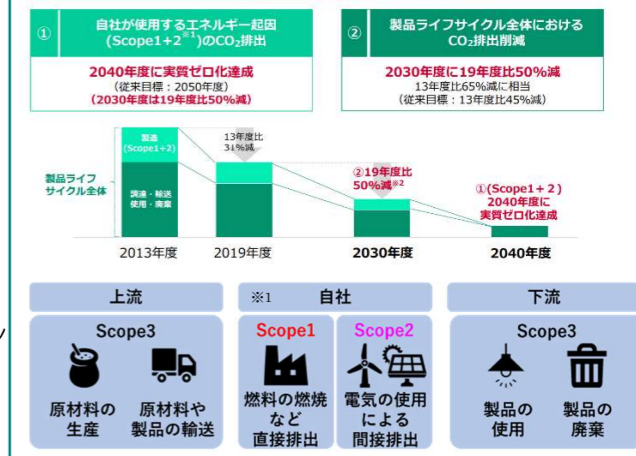
高機能フィルムの主力生産拠点である、富士宮事業場、及び神奈川事業場足柄サイトを「カーボンニュートラルモデル工場」と位置付けて、2030年度までにカーボンニュートラル化を目指しています。

富士宮事業場ではこの一環として、1年を通して低温で豊富な井水を活用した空調の導入により、電気の使用量を削減しています。また、自家発電設備の点検時期を夏季工事期間に当てることで、効率の悪い予備発電設備の運転期間を短縮するなどの、省エネ活動を強化しています。右グラフの様に、富士宮事業場から排出するCO₂量も、徐々に削減出来ています。

2023年度は、主要製品であるX-レイフィルムの生産工程のうち、乾燥部分を短縮して、排出するCO₂を削減する改良を進めます。更に今後も、私達はカーボンニュートラルの実現に向け、全力で取り組んでまいります。

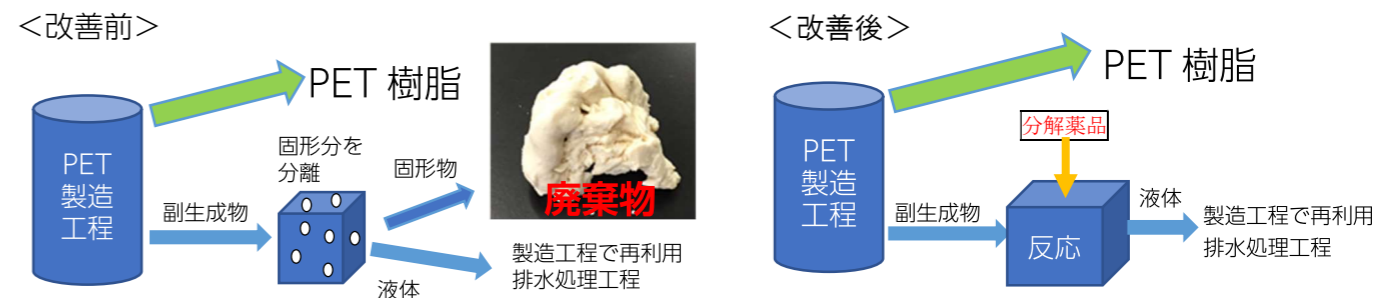


新たな脱炭素目標



【特集2】廃棄物削減

従来、PET樹脂製造工程で発生する副生成物のうち、液体については、製造工程での再利用及び当事業場の排水処理工程で、微生物による分解を行っています。しかし、固形物については、燃料として活用するにも粉砕する労力がかかり、廃棄物となっていました(約100t/年)。そこで、2022年度に、技術・製造部門にて副生成される固形物を分解することを検討しました。分解薬品の添加により固形物を液体とすることが可能となり、製造工程での再利用や既存の排水処理工程で分解することにより廃棄物削減を達成しました。



環境保全活動

1) 廃棄物削減と3R*推進

【特集2】をご覧ください。*リデュース・リユース・リサイクル

2) 水質汚濁防止

河川放流水の水質は富士宮市との公害防止協定範囲内であることを維持しています。

分析項目	単位	法令規制値	静岡県条例値	公害防止協定値	工場管理値	実績(2022年)	実績(2021年)
pH(水素イオン濃度)	-	5.8~8.6	5.8~8.6	6.4~8.3	6.4~8.3	6.9~7.6	6.9~8.0
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/l	最大160 平均120	30 20	9 6	9 6	2.8	1.5
COD(化学的酸素要求量)	mg/l	-	最大30 平均20	16 8	13 8	5.4	7.6
浮遊物質(SS)	mg/l	最大200 平均150	40 20	20 12	5 3	2.0	2.4
フェノール類	mg/l	5	-	-	5	<0.5	<0.5
大腸菌群数	個/ml	3,000	-	-	3,000	4	30

また、敷地内の地下水でもすべての物質が環境基準値内を維持しています。

3) 大気汚染防止

各設備共にばいじんと窒素酸化物の濃度は、法規制値と協定値未満でした。また、硫黄酸化物の総量規制値も法規制値と協定値未満でした。

法規制	設備	ばいじん(単位 g/m ³ N)			硫黄酸化物(単位 m ³ N/h)			窒素酸化物(単位 cm ³ /m ³ N)		
		法規制値	協定値	実績値	法規制値	協定値	実績値	法規制値	協定値	実績値
濃度規制	3号発電ボイラー	0.15	0.01	未検出	—	9.94	未検出	150	130	100
	5号ガスタービン+4号廃熱ボイラー	0.15	0.10	未検出	—	1.34	0.56	150	100	76
	7~9号ガスタービン(発電機)	0.05	0.04	未検出	—	0.03	未検出	600	200	120
	10~12号ボイラー	0.10	0.05	未検出	—	0.0048	未検出	150	55	14
	10~12号加熱器(ボイラー)	0.10	0.05	未検出	—	0.0004	未検出	150	55	35
	J-1、2熱媒ヒーター(ボイラー)	0.30	0.10	未検出	—	0.6	0.17	180	130	100
	焼却炉4号機(ボイラー)	0.08	0.05	未検出	—	0.42	未検出	250	60	33
2号発電ボイラー(予備設備)	0.15	0.02	非稼働	—	5.11	非稼働	210	150	非稼働	
総量規制	全設備合計	—	—	—	20.34	17.44	0.73	—	—	—

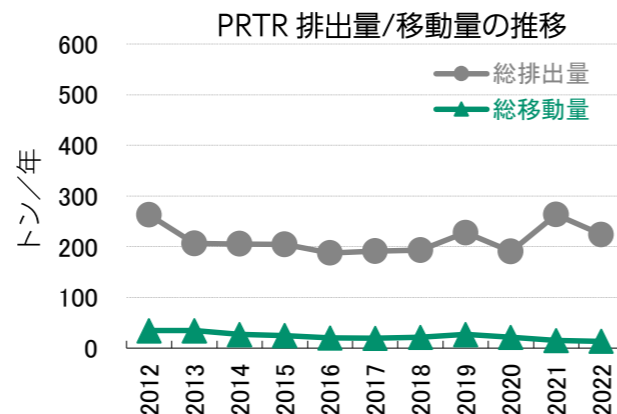
※ 協定値：富士宮市と締結した公害防止協定値。また、濃度規制と総量規制の数値は最大値です。

4) 化学物質の適正管理 ~PRTR 対象物質・自主管理対象物質の管理状況~

PRTR 法(化学物質排出把握管理促進法)に基づき、人の健康や生態系に影響を与えるおそれがあり、且つ環境中への排出量や移動量が年間1トン以上の化学物質について、毎年行政へ報告しています。

自主管理対象物質も含めた総排出量(大気排出と水域排出)、総移動量(廃棄物)は X-レイフィルム生産減の影響で減少しました。土壌への排出はありません。

それ以外の原材料や研究・検査・工程管理用の化学物質についても、労働安全・環境保全・製品安全及び廃棄物管理などの総合的観点からリスクを評価、管理基準を設定のうえ使用するシステムを構築して管理・運用しています。



労働安全衛生

1) 労働災害ゼロへの取り組み

『職場のリスクを見える化し、ゼロ災害を達成する!』のローガンのもと、職場のリスク摘み取り活動に加え、リスクの「見える化」に注力した活動を展開しました。また、日本化学工業協会が実施する「日化協安全表彰」において、安全な職場環境構築に取り組んでいる事が高く評価され、安全優秀賞を富士フィルムグループとして30年ぶりに受賞致しました。



日化協 安全優秀賞受賞

2) 交通加害事故ゼロへの取り組み

通勤途上加害事故ゼロを目指し、交通安全立哨、ドライブレコーダーを活用した従業員相互の交通安全チェック、交通イラストでのKYTなど、各職場で交通意識UPのための活動を実施しました。

3) 防災対策の推進

大地震後を想定し、総合防災訓練での建屋安全性確認として「建屋応急危険度判定」の訓練を昨年度に続いて実施しました。

4) 安全教育・講習会・講演会の実施

職長に向けた「職長能力向上教育」を、今年度より社内で展開。ディスカッション教育を通じて、安全配慮義務の重要性理解を推進しました。



職長能力向上教育

5) 心身の健康増進への取り組み

「禁煙」「生活習慣改良」「がん検診受診率向上」「メンタルヘルス」を柱として、従業員の健康増進への取り組みを展開しています。例年実施しているカウンセリングや保健師面談に加え、2022年度は特に「生活習慣改良」対策に注力し、社内食堂におけるヘルシーメニュー提供および健保主催の”歩活(あるかつ)”に積極的に参加しました。これらの活動を通じ、富士フィルム静岡(株)が2年連続で健康優良法人に認定されました。

6) ワーク・スタイル・イノベーション(WSI) 活動による働き方の変革

社内広報による啓発活動、有給休暇年間取得目標日数の設定、週2回の定時退社日放送等を通じて一人ひとりの意識改革を進め、併せて職場毎の業務効率化活動を進めて働き方の変革を推進しました。

社会とのコミュニケーション

1) 事業場周辺の清掃

(2023年6月1日、参加者約500名)

事業場周辺道路や潤井川周辺などの清掃活動を行いました。その他、6月の環境月間に、環境教育、環境対策に繋がる提案活動、環境異常発生時の対応訓練、環境関係機器/設備の点検を実施しました。



事業場周辺の清掃

2) ゼロカーボンシティ「オール富士宮」フェア

富士宮市主催のフェアに参加。リサイクル、排水処理、カーボンニュートラル推進に関する発表をしました。

3) 富士宮産業フェア

富士宮市、富士宮商工会議所、芝川商工会主催の産業フェアに参加。レントゲンフィルムをはじめ、当事業場で生産している製品を紹介するとともに、地域との交流を深めました。

4) 日本能率協会総会

日本能率協会総会を当事業場にて行い、発電設備を見学していただきました。



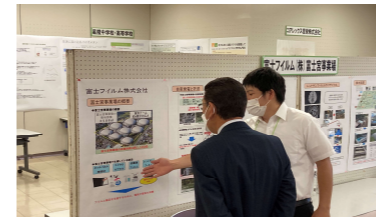
日本能率協会総会

5) 社外清掃活動への参加

静岡県産業廃棄物協会主催の富士山麓清掃活動へ参加しました。

6) 大中里地区環境対話集会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、今年度は中止にしました。



ゼロカーボンシティオール富士宮



富士宮産業フェア

このレポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願いいたします。
富士フィルム株式会社 富士宮事業場 環境グループ
TEL: (0544) 26-7175 FAX: (0544) 26-7176